

木材の樹種を知ることは、木材を購入、利用する時などに必要不可欠です。ある木材が何の木であるかを知るには、まず木材を肉眼で観察し、色、肌触り、重さ、匂いなど、その木がもつ特徴を把握することから始め、さらに正確に調べたい場合には、木材から薄片を作製し、顕微鏡で観察し、名前の分かっている標本と比較して調べます（図1、2）。そのためには由来の確かな標本が必要です。

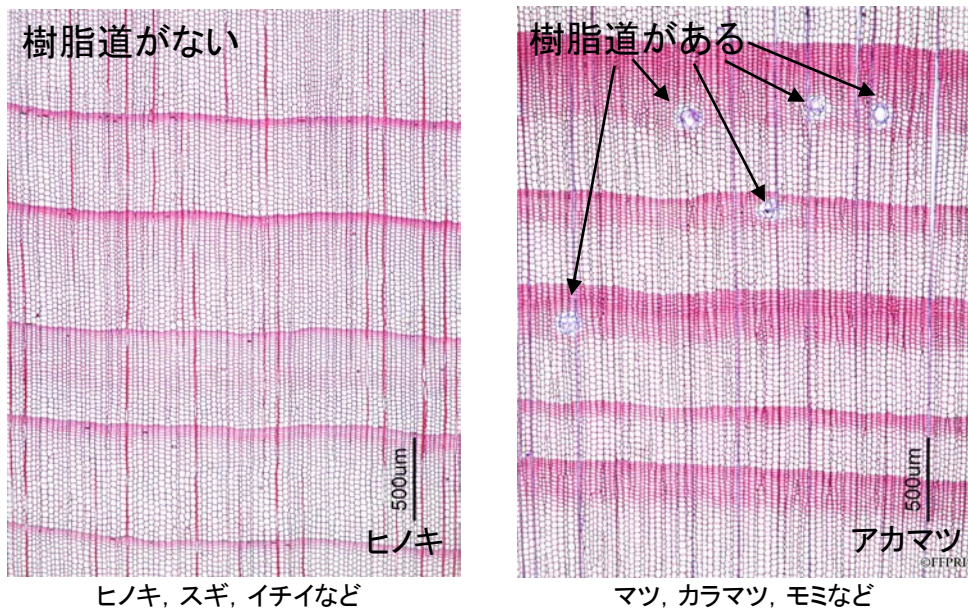


図1 針葉樹の樹種を調べるためのポイント(樹脂道の有無と年輪の変化の様子など)

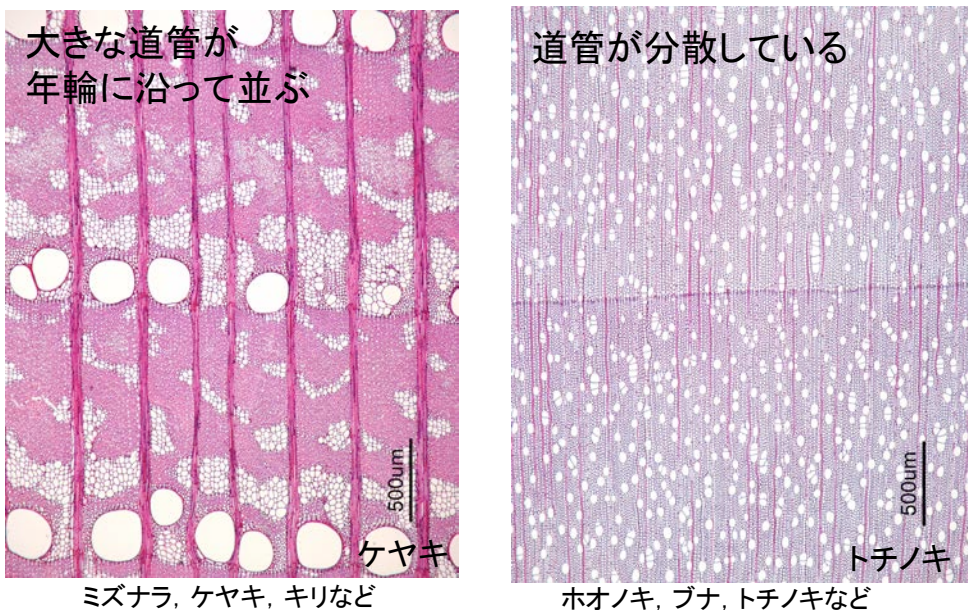


図2 広葉樹の樹種を調べるためのポイント(道管の配列, 放射組織の太さなど)



森林総合研究所木材標本庫

木材加工・特性研究領域

森林総合研究所の本所(つくば)には現在日本内外の約8,000種の28,000個体の樹木から得られた由来の確かな木材標本が集められています(図1)。木材標本の他に、さく葉標本(押し葉の標本)(図2)、プレパレート標本(顕微鏡観察用)(図3)も所蔵されています。それぞれの標本には個体ごとに世界的に決められた固有の番号が付いて、番号を調べるとどのような標本かが分かるようになっています。

情報・画像はインターネットでも公開しています。

URL: <http://f030091.ffpri.affrc.go.jp/>



図1 森林総合研究所の木材標本庫と木材標本



図2 さく葉標本



図3 プレパレート標本